ものづくり成長モデルの春 2016 京都

京都は自動車やエレクトロニクス、ライフサイエンスなど成長産業に向けた京都企業の取り組みとともに、ものづくりを支援する数々の仕組みを誇る。京都府や京都市の助成および支援制度、けいはんな学研都市や京都リサーチパークが展開する新しい仕掛け、そして京都企業の製品力・技術力が相まって国内外が注目するものづくりの先進地域を形成している。京都産業を盛り上げるさまざまな取り組みから、京都企業の力の一端をのぞく。

KRP、進む ものづくり支援

京都リサーチパーク（KRP）では先端産業から伝統産業まで広くものづくり産業を支援している。

京都府が2012年から事業委託する「京都職人工房」。販路開拓やパッケージデザインなど自分の作品を売る力、マネジメント力養成に主眼を置く。自らの展示会プロデュースなど自立できる職人育成を支援する。漆器、染織、金工、陶芸、竹工など多くの職人は「自分の作品は自分で売るという意識は根付いている」という。

「職人たちのマーチ」は受講者の成果を発表する展示会で、職人たちの実演や限定ショップが設けられる。最近の取り組みがメンバーシップ制やシェアオフィス制だ。職人同士のコラボレーションやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）活用、メンバー対象ワークショップなどでネットワーク作りを支援する。シェアオフィスはKRP地区に腰を落ち着けて活動したい職人に提供する。

ものづくり中小企業の医療分野参入を支援するのが、09年発足の「再生医療プラットフォーム」だ。金属加工や機械組み立てなど、医療産業と関わりの薄い業種100社以上が参加。細胞培養時の汚染を防止するキャニスター、溶液を効率的に吸引するアスピレーターの開発など成果は多い。17日に大阪市北区で始まる日本再生医療学会総会の展示会に出展、積進（京都府京丹後市）の3D細胞培養装置やニイガタ（京都市下京区）の特注実験装置など注目が集まり、着実に実績へとつながる。

京都職人工房、職人たちのマーチの風景

医療現場のニーズをわかりやすく的確に伝えてものづくり企業が開発イメージを作りやすい「翻訳」作業がポイントとなっている。例えば、「細胞シートを切る道具」では、シートの大きさなど基本情報がない。これを誰もがわかる表現に置き換えて具体的にイメージさせ、中小企業は保有するシーズを活用できる。研究者との懇談会、ネットワーク「リカモ」活用などさまざまな仕掛けで支援充実を続けている。

世界に誇るリサーチコンプレックス

関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）には100以上の日本を代表する企業の研究機関や研究開発型産業が集積。情報通信や環境・エネルギーなど先端研究の成果を生み出している。

新たな新産業創出の取り組みは、関西文化学術研究都市推進機構が中核となり、異分野融合で世界が注目する新しいイノベーションを起こそうというリサーチコンプレックス事業だ。科学技術振興機構（JST）のFS拠点に採択された。研究シーズの集積などポテンシャルが高く、世界に誇るイノベーションを予感させる。「五感・脳情報科学による新たな産業価値創出と超快適スマート社会の実現」をテーマに2月にキックオフ会議（写真）を開いた。関西経済連合会、サントリーホールディングス、同志社大学、京都府など24社・機関が参画。脳情報科学、五感生成、生活空間創出など研究シーズのもとに、感性に訴える商品やサービス開発で「超快適スマート社会」構築に貢献するのが狙いだ。

けいはんな学研都市

現在、組織や研究分野の垣根を超えて会合を開催、実現の仕組み作りが進んでいる。視覚や嗅覚など五感を刺激する超臨場感技術や感動を与える美味しさ、心地よい生活支援ロボットなどが候補テーマだ。

地元中小の発展サポート

京都市は16年度予算の柱の一つとして「京都の知恵や強みを最大限に活かした地域経済の活性化と安定した雇用の創出」をかかげる。重要となるのが、市内事業所の99%を占める地元中小企業の事業継続と発展。

特に雇用情勢の改善を背景に、中小企業では人手不足感が高まっており、「京都中小企業担い手確保・定着支援事業」をスタートする。

同事業では学生と中小企業の協同で「京都の中小企業魅力再発見プロジェクト（仮称）」を実施し、学生に対する中小企業の発信力を強化。中小企業と求職者のマッチングも積極化する。

加えて安定雇用を目指した働き方改革の具体策を検討するため、非正規率の高い業界や大学、行政による研究会を設置する。

人材確保以外では、稼ぐ力の向上や事業承継など業種横断的な対策を検討する「中小企業振興会議（仮称）」を創設。また企業誘致に向け、市街地内の工業専用地域などを中心に調査を実施する。

市の新年度予算

20年先の〝京都づくり〟掲げる

京都府の16年度当初予算は「京都府地域創生戦略」を実現できるスタートの年として、20年先を見越した四つの京都づくりを掲げる。少子化対策をはじめ、女性や高齢者らが活躍できる「人づくり」、中小企業の未来戦略などを展開する「働きづくり」、京都の個性を生かした地域戦略を進める「地域・文化づくり」、災害対策など20年先を見通した「安心づくり」を据える。15年度2月補正予算を加えた「14カ月予算」としては、前年比0・8%増の9756億円と過去最大の規模となっている。

府の新年度予算

人づくりには、「京都まるごとキャンパス事業」がある。府内各地で大学の授業や研究活動を実施し、大学の活動費や市町村の受け入れ環境整備に対する補助制度を創設する。

働きづくりは、「中小企業のまち創生事業」など。従業員数20人以下の小規模企業の設備投資に対するリース支援制度を創設し、年間300社以上をサポートする。

地域・文化づくりは、文化庁の京都移転をにらみ「文化首都・京都」事業による「ほんまもんの文化」を発信。京都文化芸術会議（仮称）事業では約300人の「京都文化賞受賞者」で構成する会議の設立を計画する。

安心づくりは、総合的な治水対策強化に加えて、関西電力高浜原子力発電所の再稼働を踏まえた安全確保を強化。災害避難道路の整備などを促進する。

京都産業21

講演する西口氏

京都府や京都市、京都産業21は、厚生労働省の「戦略産業雇用創造プロジェクト」に13年7月に採択され、産学官を中心とした「オール京都」体制で産業と雇用の政策を一体的に推進する「京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト」に取り組んでいる。新事業の創造と、正規雇用の創出を目指すことが大きな目標だ。

プロジェクトのコンセプトは、製品開発型モノづくり企業や大学・研究開発拠点に加えて、ハイテク・伝統・コンテンツなど京都ならではの産業集積にもつなげる。「京都次世代ものづくり産業」の雇用創出では15年度までの3年間で2000人を目標に掲げていたが、それを大きく上回る3300人規模に到達。

オール京都で政策推進

プロジェクトの協議会にも1600社を超える府内企業が加盟した。同プロジェクトの推進体制は、タスクフォース役を担う西口泰夫ソシオネクスト会長兼CEO（元京セラ社長）による各事業実施機関の横断的連携のもと、事業手段と責任を明確化している。

主な取り組みは、産業の活性化や新産業の育成から雇用創出、人材育成・確保までのパッケージ支援。ライフサイエンス推進などで分野融合、連携促進に向けた新たなプラットフォーム（産業支援拠点）の整備にも乗り出している。人材面では雇用型企業実習（OJT）でものづくり、若手職人、コンテンツクリエーター分野での人材育成や就職マッチングを支援した。

成果として商談会出展での販路拡大、ビジネス講座受講での新規事業展開を通じた雇用創出ができたという声や大学研究者との共同研究につながった事例があったという。課題には中小の人材不足は続く状況があげられた。

今後は京都のブランドを生かした新製品やサービスを創出することに主眼を置いた企業の新事業創造、付加価値力向上による質の高い安定した雇用創出が求められそうだ。

◇

2月26日にはKRPで成果報告会が開かれた。西口氏は持続的に成長する企業で同プロジェクトが果たした役割について、「部分最適追求力を高めて、その成果でもって全体最適を創出する新たなマネージメントシステムの活用が必要」と説いた。京都府や京都市、京都産業21では同プロジェクトの事業期間は13―15年度となるが、16年度から3年間継続できるように厚労省などに申請している。

お酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁じられています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。飲酒は適量を。のんだあとはリサイクル。

www.takarashuzo.co.jp
お客様相談室 TEL 075(241)5111 宝酒造株式会社

ISHIDA

はかりしれない技術を、世界へ。

産地分野 食品製造分野 工業分野 食品加工分野 物流分野 小売分野 医療分野

株式会社イシダ www.ishida.co.jp
本社 京都市左京区聖護院山王町44 〒606-8392 TEL 075-771-4141